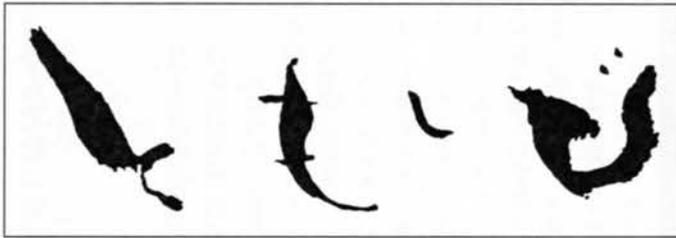


大学女性協会東京支部

2014. 3
第55号



東京支部委員会の新しい出発を望む



東京支部長 小澤 紀子

東京支部委員会の交代時期を機会に昨今の支部状況と要望を述べます。

JAUWは、平成24年4月1日に法人格が移行され新しい定款や規定のつくり運営されています。東京支部も支部規約を変更するのが本筋ですが、現実の運営を反映させたものにしたと考へ、支部総会の議を経て規約変更を2年間待ちました。

- ・東京支部委員会の新しい出発を望む
- ・第2回東京支部国内チャレンジ奨学生決定
- ・東京支部総会（4月12日土曜日）のお知らせ

まいりましたが、それぞれのご事情により叶わず、やむなく私たちは東京支部を運営しなければという使命感をもってがんばってまいりました。では東京支部はこれまで何をしてきたのでしょうか。書き下すと、こんなにあるのかと驚きました。

- ①「ともしび」発行（年2回）
- ②講演会や見学会の実施
- ③サークル活動
- ④外国在学学生への国際奨学金授与
- ⑤国内学生にチャレンジ奨学金授与
- ⑥支部長の本部長理事兼任
- ⑦本部国内奨学金委員会において東京支部および第1ブロックでの選考業務
- ⑧本部が企画した事業との協働
- ⑨支部バザー（ただし2012年3月から休止中）
- ⑩本部事務所の借受けと事務の方による支部窓口の代行などに対しての事務所経費の一部負担

会員の皆さまには、新年度から支部活動や会費使途など見直して、協力できる範囲を見積もり、委員候補に自薦他薦していただきたい。支部委員会を刷新してゼロから船出をしていただきたいと切に望みます。委員会活動は、大変なことがばかりではありません。異なる大学を出た

者同士が10年間に語り合ったことは、知識を増やしさまざまな楽しい思い出になると喜んでいきます。

事業報告・予定

2013年	10・26	JAUW主催セミナー 於・ピュアリティまきび (岡山市)
11・13	第2回東京支部国内チャレンジ奨学金奨学生決定 峯岸桃子さん 津田塾大学3年	
11・28	懇話会「イスラム文化に育てられて」 講師 アルサルム・ムハンマド氏 アナワテイ氏	
2014年	1・8	第2回東京支部国内チャレンジ奨学金授与式
1・11	新春のつどい 国内奨学金贈呈式	
3・12	東京支部会報「ともしび」 第55号発行	
4・12	東京支部総会	
5・17	JAUW 第3回定時会員総会 於・都市センターホテル	
5・18		

*新たな企画は、その都度お知らせいたします。

東京支部主催懇話会 「イスラム文化に育てられて」

(13・11・28)

山田 朋美



十一月下旬の小春日和の午後、千駄ヶ谷の津田塾大学同窓会館にて、イスラームについて理解を深めるための懇話会が開催されました。工学院大学大学院に留学中のアナワティさんとアルサルムさんをお迎えし、イスラーム教やそれに基づく文化・社会についてお話いただきました。

イスラームというと、テロリズムや、戒律の厳しい宗教というイメージが思い浮かぶ方も少なくないのではないのでしょうか。しかし、アナワティさんとアルサルムさんは、イス

ラームは平和的で、厳格さの中に柔軟性も持ち合わせた宗教であること、資料や写真を取り入れながら、わかりやすくお話しくださいました。イスラームはテロリズムを認めない宗教であるとコーランに記されていること、一方的に豚肉やアルコールを禁止してはならず、非常時にはそれらを口にすることが許されていることなどは興味深い例でした。

講演のあとは、お茶とお菓子をいただきながらの懇話となりました。参加者からは、イスラームにおける女性の地位等に関する質問が次々と寄せられたのですが、ここで私たちはイスラームの多様性を知ることになりました。アナワティさんはインドネシア、アルサルムさんはサウジアラビアというようにご出身が異なるため、同じイスラームでも、女性のおかれている状況が異なることがお二人のお話から窺われました。その他にもイスラームの戒律と現実との関係やキリスト教との比較など重要な質問が寄せられ、話題の尽きない懇話会となりました。

懇話会を通じて、イスラームに対する理解が深まったと同時に、自らのイスラーム認識を問い直す機会が得られ、貴重な経験となりました。

新春のつどいに出席して

仙台支部長 谷地森 涼子

新春のつどいに出席するのは今年で4回目。初めて奨学金贈呈式を目の当たりにし、奨学生一人ひとりによるスピーチを聞いたときの感動は忘れられない。同時に、会員であることに誇りを持った瞬間でもあった。奨学金事業こそ大学女性協会の活動の大きな柱であることを実感した。年会費の3分の2を本部に納めているのに、どのような活動を展開しているのか、会費がどのように使われているのか、認識していなければ、地方の会員は目的を見失いかねない。みんなにこの感動を伝えたいと願い、支部新年会で報告している。

一昨年は、仙台支部推薦の東北大学大学院医学系研究科の吉川貴子さんが受賞されたので、支部にとって大学女性協会の活動の意義をより身近に感じることができた。

今年の会場で、ホームズ奨学生の呉壮香さんと席が隣り合わせになり、話が弾んだ。彼女は学生時代からチェルノブイリ原発事故に関心をもち、甲状腺腫瘍の早期診断の研究に取り組み、福島原発事故後の健康被害に向けた対策を講じたいと発表



した。頭のどこかで放射能汚染を気にしている地域の者にとって、興味深いお話だった。同伴されたお祖父様「この子は手術がうまいんですよ」と孫自慢された。ほかの奨学生からも私たちに夢と希望を与えるすばらしいスピーチが披露された。

午後の第2部「今に生きる平家物語」は、祇園精舎「祇王」では、楽しいひと時を過ごした。「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり」俳優金子あいさんの語り、ミュージシャン水田砂知子さんの波紋音には、すっかり魅了され、思わず、「支部のみんなに見せたいわ」と言ったら、お隣の長崎支部長の梅田さんが、「録画していただきたいわね」とおっしゃった。私もまったく同感である。

★今回は他支部の方の感想をうかがいました。

東京支部国内奨学金

第2回東京支部

国内チャレンジ奨学生決定

2013年度の東京支部国内チャレンジ奨学生が決まりました。すでにご存知のとおり、チャレンジ奨学金は、就労経験のある女性が再び大学で勉強するのを支援する奨学金制度です。



2013年度の奨学生には津田塾大学学芸学部3年の峯岸桃子さんが選ばれました。峯岸さんは現在、国際関係学科の多文化・国際協力コース国際協力ユニットに所属し、発展途上国への農業技術援助、さらに農業に従事する女性の支援について学習中。卒業後は種苗開発関連の企業への就職を目標としています。一年間の台湾交換留学で培った現地調査やコミュニケーションスキルを生かし、農業を通じて国際協力に貢献したいという目標をお持ちです。

さる1月8日、四谷事務所では奨学金授与式を行い、就職活動をしている現在の状況や、大学での学習環境の様子、高校卒業後美容師として働いていた経験談なども伺いました。近年、日本再興戦略の一つとして日本の成長をけん引する人材の育成が急務とされ、社会人や女性の学び直しの機会を拡充する具体的なプログラムがいろいろな大学で計画されているようです。その改革のなかでこれからの日本を担う人材が数多く生まれることを切に願っています。私どものチャレンジ奨学金も一粒の種として必ずや大きな実を結ぶものと確信しています。

東京支部国際奨学金

国際奨学生の近況報告

現在、ミンダナオ島ビラワン民族のカルメラ・タンボンゴクさんとジェニリン・ヌガイさんに奨学金を給付しています。お二人ともジェネラルサントス大学に在学中。カルメラさんは本来ならば今年卒業の予定でしたが、大学講師の着任が遅れ、2013年度後期に履修すべき講座を受けられないという不測の事態に遭遇しました。東京支部はこのケ

スに対応して、今年一年に限り奨学金を継続し支援することにいたしました。現在は臨時的にハイスクール生寮の寮母を務めつつ授業の開始を待っているようです。小柄ながらも指導力がある彼女は、後輩のハイスクール寮生の学業指導も含めて、よい寮母役を務めているそうです。

東京支部会員

寄稿コーナー

縄田眞紀子

社会福祉奨学金事業に携わって

1月11日、「新春のつどい」において2013年度国内奨学金贈呈式(一般・社会福祉・安井医学)を行いました。ご出席の皆さまと、新年を寿ぎ、奨学金の贈呈をお祝いでしました。このことは、誠に嬉しいことでした。今年度の社会福祉奨学生は3名です。「重い聴覚障害を乗り越えて、それぞれの分野で研鑽を積み、将来はその成果を社会に役立てたい」と、明るく力強いスピーチに、参加者一同感動とたくさんのエネルギーをいただきました。会場では手話通訳の方に同席していただき、速やかな情報交換と和やかな交流ができました。

この社会福祉奨学金は、1971年に設立され、初期には障害に関する研究も対象に加えられていました

ジェニリンさんは今年3年生になります。昨年11月に現地を訪問した「NPO法人ビラワンの医療と自立を支える会」の山崎登美子代表によると、元気に勉学に励んでいるそうです。現地では、このところの円安が響いて生活が厳しいようですが、今後も温かく見守っていきたいと思います。(堀内)

が、現在は文部科学省が認める大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優秀な学生に奨学金を贈呈しています。42回目を迎え、総人数は157名です。

JASSO(日本学生支援機構)の調査によれば2012年現在、大学・大学院・短大・高等専門学校に在籍する学生のうち、心身に障害を持つ学生数は1万1768人(20.37%)、2005年に比べると2倍以上です。入試や授業での支援が拡充したほか、障害を持つ学生の把握が進んだと分析されています。また教育環境は、授業での支援、入試では時間の延長、面接や書類での選考、大学間のネットワーク、支援ノウハウの共有、バリアフリー化などが進められるそうです。

共に学び、共に歩む社会を目指し、奨学生の方々の研究・勉学をこれからも応援していきたいと願っています。(社会福祉委員長)

2014年
東京支部総会のお知らせ

サークル案内

・四月十二日(土)

午後一時～午後四時(予定)

津田ホール一階会議室

(千駄ヶ谷駅前)

・第2回東京支部国内チャレンジ奨学生の紹介

・東京支部総会

・東京支部の今後のあり方について

第2回東京支部国内チャレンジ奨

学生は、津田塾大学3年生の峯岸

桃子さんに決まり、奨学金授与式

は1月8日の支部委員会時に行い

ました。支部総会に先立って、奨

学生の紹介を行います。

万障お繰り合わせのうえ、ご出席

下さいますようお願いいたします。

※今年は、記念講演会はありません。

2014年度全国総会
第3回定時会員総会のお知らせ

5月17日(土)・18日(日)
於：都市センターホテル

皆さまお誘いあわせのうえ、
ご出席下さいますよう
ご案内申し上げます。

★源氏物語を読む会 (I)

・第一水曜日

午前十時半～十二時

・津田塾大学同窓会・会議室

・講師・坂上栄美子会員

・連絡先・堀内洋子

(☎045-983-4680)

★源氏物語を読む会 (II)

・第三・第四火曜日

午前十時半～十二時

・津田塾大学同窓会・会議室

・講師・坂上栄美子会員

・連絡先・中山律子

(☎03-3333-6146)

★源氏物語を読む会 (III)

・第二・第三水曜日

午前十時半～十二時

・津田塾大学同窓会・会議室

・講師・坂上栄美子会員

(☎045-983-4680)

★水墨画教室

・第二木曜日 午後一時半～三時半

・JAUW事務所会議室

・講師・日高絹子(絹紅) 会員

・連絡先・森川淳子

(☎045-583-3430)

2013年度東京支部新入会員

(敬称略)

氏名 出身校

亀井 佑子 茶・千葉大院

熊 成子 東女

三浦 まり 慶

山田 朋美 津

お悔やみ申し上げます (敬称略)

高野 フミ

2013年12月14日 逝去

芥川 妙子 2014年1月4日 逝去

ご寄付いただきました。ありがとうございます。

会員(匿名希望)

会員(匿名希望)

源氏物語を読む会 (I)

源氏物語を読む会 (II)

源氏物語を読む会 (III)

水墨画教室

五千元

二千元

百万元

一万元

二万円

一万円

五千元

★JAUWのホームページが、2月

17日より新ホームページに移行さ

れましたのでご連絡いたします。

「訂正とお詫び」

第54号3頁、2013年東京支部予

算案は予算です。

お詫びして訂正いたします。

◆住所等変更の場合は、事務所ま

でお知らせください。

◆使用済みの切手を事務所までお送

りください。

◆会費未納の方は、用紙の「振込み

のご案内」を参照の上、どうぞお

早めにお振込みくださいますよう

お願い申し上げます。

東京支部国際奨学生
2014年度募集

問い合わせ先
(一社)大学女性協会
東京支部国際奨学金係

TEL 03-3358-2882

FAX 03-3358-2889

E-mail: jauw@jauw.org

ご推薦やご紹介お待ちしております!

〈編集後記〉

雪国かと思う大雪が東京に2週続

いて降り、雪かきを頑張りましたが、

やっと春近いです。編集委員不足で

頁数を減らしましたが、「ともしび」

第55号が終了しました。会員間のタ

イトラインを失いたくありません。

編集委員への参加をお願いします。

(A・S・H)